

くすり一口メモ

「狂犬病ワクチン」の供給について

昨年11月にフィリピンから帰国した男性が狂犬病を発症して死亡するニュースが、相次いで2件報道されました。国内では36年ぶりの発症に、「流行地域より帰国し感染が疑われる患者の診療等について」の通知が、厚生労働省保険局より各都道府県宛に対して行われました。狂犬病の流行地域は主にアジア、南米、アフリカとなっており、WHO（2004年）の推計による死者は、年間約5万5000人にのぼり、インドで3万人、中国で2000～3000人となっています。

病原体は狂犬病ウィルスで、感染動物は犬が大半ですが、猫、キツネ、アライグマ、コウモリなども感染源となります。唾液に含まれたウィルスが咬傷部位から侵入して、14～90日間の潜伏期間を経て発病します。発病率は32～64%で、感冒症状に加え、強い不安感、神経過敏症状を示し、その後全身麻痺から昏睡状態となり呼吸不全を起こして死亡します。発病から死亡までは2～6日といわれ、水や風を怖がるようになることが特徴です。

ヒトからヒトに感染することはないため、感染した患者からウィルスが拡大することはありません。犬や動物に咬まれた場合には、早期に狂犬病ワクチンを接種することで発病を阻止することが可能です。

ワクチンの使い方は次の通りです。子供の場合も大人と同じ量となっています。

暴露前免疫（渡航前の予防接種）

1回量1.0mL

4週間間隔で2回皮下に接種し、6～12ヶ月後に3回目を接種する。

暴露後免疫（咬傷後の発症阻止）

1回量1.0mL

初回を0日とし、3、7、14、30、90日目に計6回皮下に接種する。

初回は噛まれてからなるべく早く接種する。

現在、狂犬病ワクチン（化血研のみ製造）は入手が困難な状態となっており、もうしばらくこの状態が続くと考えられます。

鹿児島県内での狂犬病ワクチンの入手方法は以下の通りです。

医療機関は薬品卸（鶴原吉井・富田薬品・アトルの3社）に電話発注する。

暴露前か暴露後かを正確に伝える。

（県内取扱い実績順）

薬品卸	時間内（月～金）	時間外（土日祝祭日）
鶴原吉井	(099) 282-6311	各医療機関担当者の携帯電話にTEL
富田薬品	(099) 257-6511	各医療機関担当者の携帯電話にTEL
アトル	(099) 284-8511	(099) 284-8511

薬品卸は緊急用FAX用紙で化血研に発注する。

化血研は24時間以内にワクチンを薬品卸へ供給する。

薬品卸は医療機関に供給する。

参考資料：予防接種に関するQ&A集、各種添付文書
（鹿児島市医師会病院薬剤部 中木原由佳）